

2. 海岸の保全に関する基本的な事項

2.1 自然条件の現況

十勝釧路沿岸域は、太平洋に面しており、台風のシーズンに高波浪を直接受ける。また、沖合は太平洋プレートと北米プレートの境界で地震が多いため、北海道沿岸の中では津波来襲頻度が最も高い地域であり(図 2.1.1)、過去に多数の死傷者を出している。南米のチリ沖津波(1960)等外国沿岸で発生した津波によっても被害が生じている、沿岸の地形は次のように形成されたと考えられている。すなわち、約4,000万年前に北米プレートとユーラシアプレートの衝突により日高山脈と根釧台地が形成された(図 2.1.2)。十勝平野は、日高山脈から河川による流入土砂により浅くなり、その後隆起して陸化した。釧路周辺は以前は湾であったが、湾口が砂州で閉塞され、河川からの細粒土砂の堆積と氷河期後の水面低下により陸化した湿原と考えられる。

海岸地形は、納沙布岬から浜中湾東縁までは、岩石海岸が多く、背後は台地となっている。浜中湾東縁から尻羽岬^{しれはみき}までは、浜中湾、厚岸湾の周辺に湿原が広がっている。尻羽岬^{しれはみき}から釧路までは岩石海岸が続き、ポケットビーチが点在する。釧路から浦幌十勝川までは砂浜背後が低湿原となっている。浦幌十勝川から広尾までは砂浜背後に海食崖が迫っている。広尾から襟裳岬までは大部分が岩石海岸である(図 2.1.4)。

沿岸には、釧路湿原国立公園、日高山脈襟裳十勝国立公園、厚岸霧多布昆布森国立公園がある(図 2.1.5)。また、渡り島の保護を目的として、釧路湿原、霧多布湿原及び厚岸湖・別寒辺牛湿原はラムサール条約の指定を受けている。これらの地域の海岸は、タンチョウ、エトピリカ、ゴマフアザラシ、ケイマフリなど、天然記念物等に指定された生物の貴重な生息地・繁殖地となっている(写真- 2.1.1)。

海岸景観は、納沙布岬、霧多布岬、百人浜、襟裳岬等、景勝地が多数点在する美しい海岸線となっている(写真- 2.1.2)。

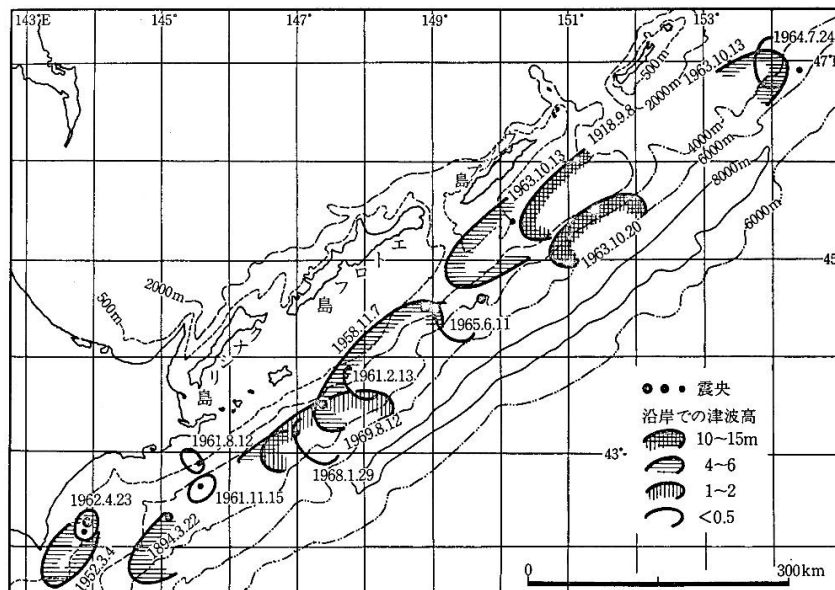
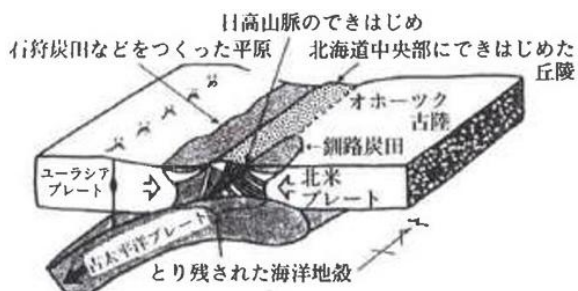


図 2.1.1 十勝釧路沿岸の過去の津波源域(地震による海底地形変形範囲)

(「新編 日本被害地震総覧」P387)



(C)約4,000万年前ごろの北海道周辺の古地理と断面

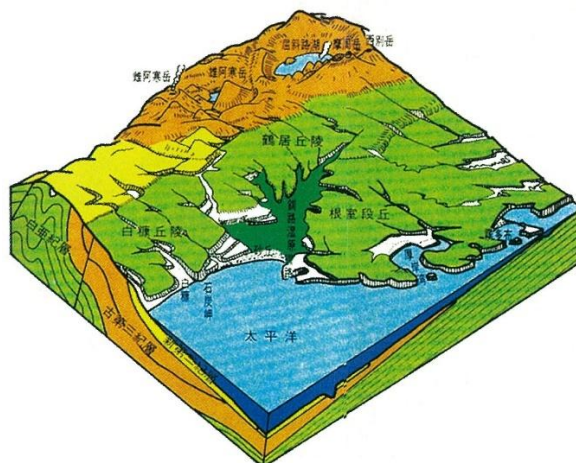


図 2.1.3 釧路湿原の形成
 (「北海道の自然ガイド」P191)

図 2.1.2 日高山脈の形成
 (「北海道 自然のなりたち」P4)

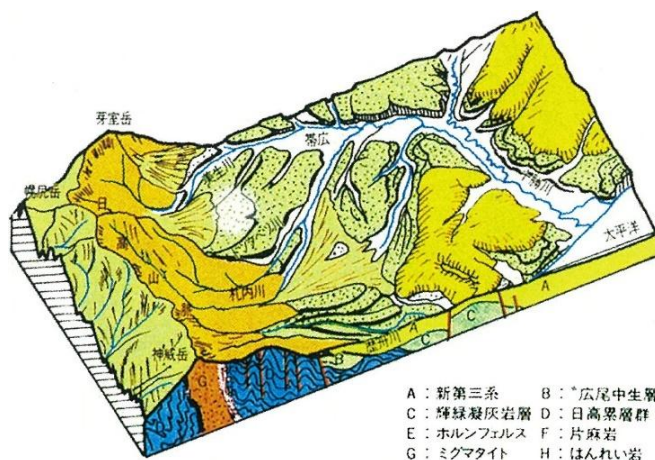


図 2.1.4 十勝地方の地形地質
 (「北海道の自然ガイド」P181)

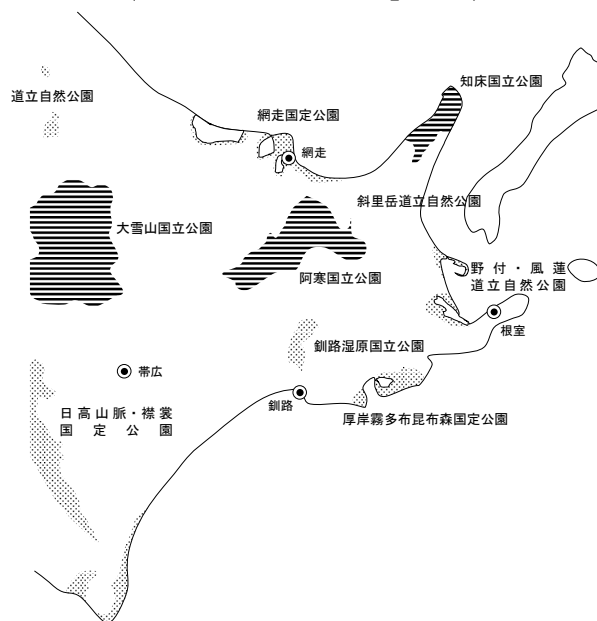


図 2.1.5 沿岸の自然公園



タンチョウ（国の天然記念物）



エトピリカ



ゴマフアザラシ



ケイマフリ

写真- 2.1.1 貴重な鳥獣



納沙布岬（流氷が見える）



霧多布岬（背後に湿原の展望）



百人浜
（日本の渚100選、日本の白砂青松100選）



襟裳岬（ゼニガタアザラシが見える）

写真- 2.1.2 海岸景観

自然環境に対する住民アンケート結果

十勝釧路沿岸海岸保全基本計画住民アンケートによれば、十勝釧路沿岸では、すぐれた自然環境が多く存在するため、生態系を壊さないような整備を望む声が多く出されている。

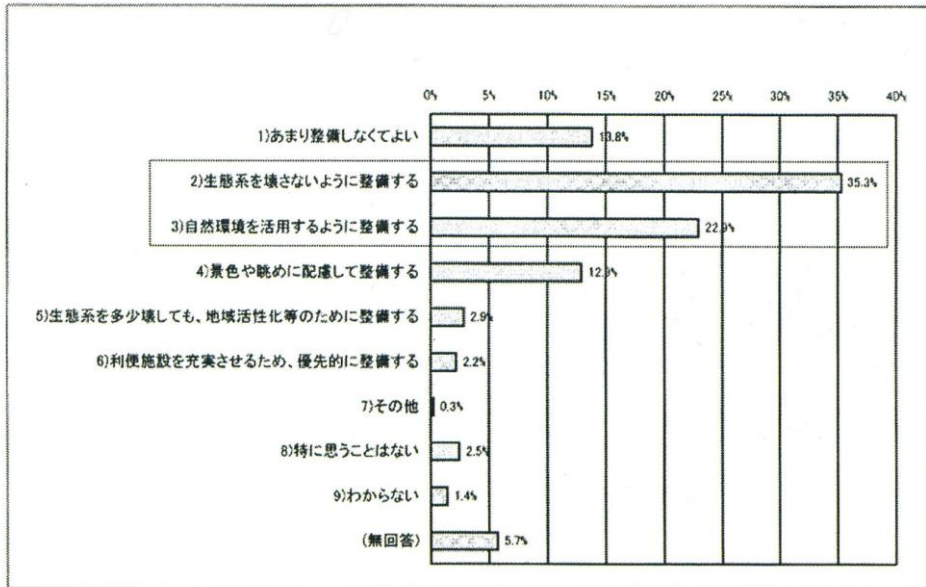


図 2.1.6 十勝釧路沿岸における自然保護のあり方
(十勝釧路沿岸海岸保全基本計画住民アンケート；平成12年11月)

また、同アンケートによれば、自然環境と産業振興との関わり合いについては、両者が共生、また環境保全第一という意見が多く、自然環境への悪影響を無視してまで産業振興に努めるとい声は少数意見となっている。

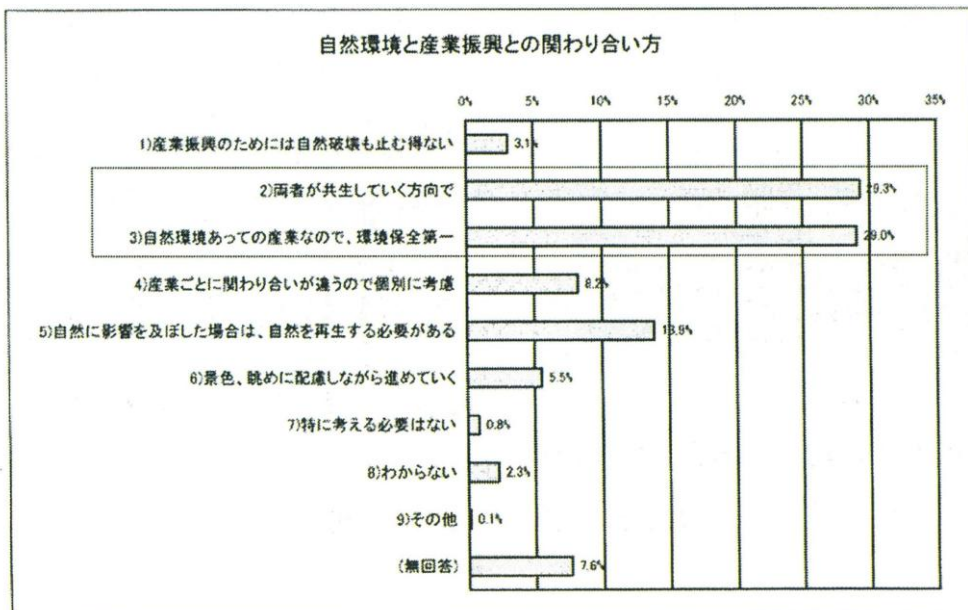


図 2.1.7 十勝釧路沿岸における自然環境と産業振興との関わり合い方
(十勝釧路沿岸海岸保全基本計画住民アンケート；平成12年11月)

2.2 人文・社会条件の現況

十勝釧路沿岸は、優れた自然環境を備えた全国有数の観光地であり、気候等による多少の増減はあるが安定した観光客の入り込み数を確保している。農業については、恵まれた自然と豊富な土地を生かし、大規模な畑作、酪農、肉用牛を中心とした農業経営が行われている。工業については、農業や林業、水産業等の地場産業を背景とした食料品などの製造業が中心となっている。しかし、近年の景気の低迷や基幹産業である水産業の不振などが影響し、企業立地件数の減少や製造品出荷額等が減少傾向にあり、技術・研究開発、新たな製品開発などに力を入れている。

広大な面積を有する北海道では自動車交通への依存度が高く、道路網は物的・人的交流に重要な役割を果たしている。沿岸域における道路網は、十勝圏と釧路圏を結ぶ国道38号線、十勝圏と日高圏を結ぶ国道336号線、釧路圏と根室圏を結ぶ国道44号線等があり、今後、空港・港湾とのアクセス強化や中核都市等とのネットワーク強化に向けた整備が望まれている。また、沿岸域に存在する空港として釧路空港があり、滑走路の延長などにより道東の拠点空港として利用されているほか、海のアクセス拠点として十勝釧路沿岸には5つの港湾と31の漁港が整備されている。



サンマ漁

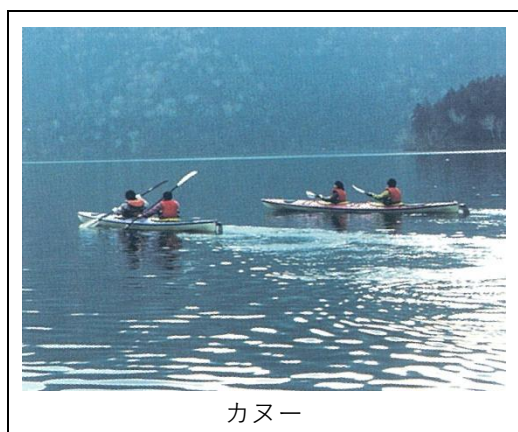
2.3 利用の現況

沿岸域は、海上交通、産業、観光、レクリエーションをはじめとする様々な活動において、極めて重要な場となっている。

海上交通として、釧路港は、北米航路の最短ルートにあることから、道東地域の物流拠点として重要な役割を担っており、また、十勝港では本道と本州を最短距離で結ぶという地理的条件に恵まれており、海の物流拠点としての機能が期待されている。漁業は、地域経済を支える重要な産業であり、沿岸の良好な漁場環境や各地に点在する漁場を活用している。沿岸域での毛がにの資源管理強化、コンブやミズダコの漁場整備、ウニの種苗生産や種苗放流などが行われている。観光・レクリエーション利用としては、釧路湿原国立公園や厚岸霧多布昆布森^{あつげし}国立公園、日高山脈襟裳十勝国立公園など、海岸域に雄大な景観と自然環境を有しており、人文・歴史的な観光資源も多く、各地に豊富に分布し、多くの祭り・イベントが行われている。また、良好な水質の海域や優れた自然環境を生かして、多くの湿原や湖沼での野鳥観察、キャンプ場や、海釣り場などが数多く存在する。



厚岸霧多布昆布森国立公園



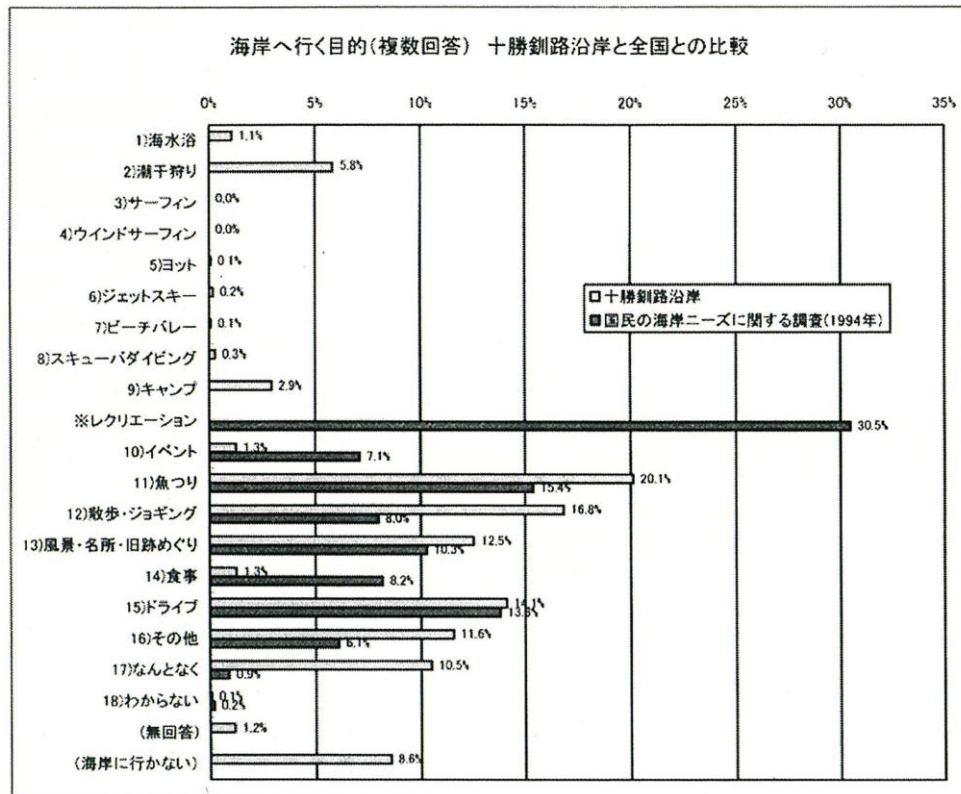
カヌー



ホッキ掘り

利用に対する住民アンケート結果

十勝釧路沿岸海岸保全基本計画住民アンケートによれば、住民が海岸へ行く目的としては魚つりが最も多く、次いで散歩、ジョギング、ドライブと続いている。全国と比較した場合、海水浴の割合が低くなっているが、これは北海道の気候的特性と考えられる。



※十勝釧路沿岸ではレクリエーションについて、1)～9)の選択肢に細分化して調査を行った。
 III Q10にて「海岸へ行く」と回答したものにつき集計した。

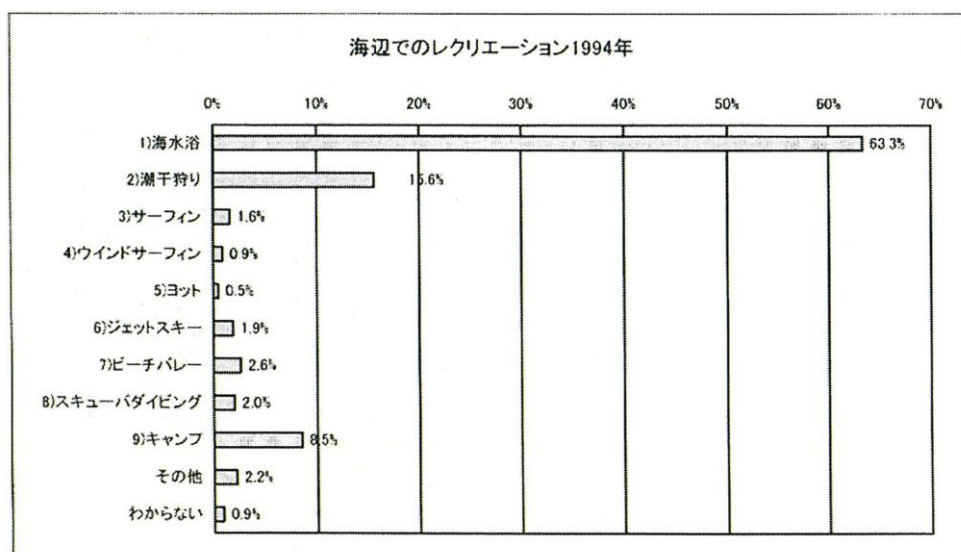


図 2.3.1 十勝釧路沿岸住民の海岸に行く目的
 (十勝釧路沿岸海岸保全基本計画住民アンケート；平成12年11月)

2.4 海岸保全の動向

十勝釧路沿岸海岸災害復旧工事申請状況等より、沿岸の海岸災害パターンについてまとめる。

海岸災害パターン

(1) 海岸災害パターン

近年の災害復旧工事申請状況から、海岸災害のパターンについて次のことが言える(図 2.4.3参照)。

表 2.4.1 海岸災害パターン

市町村	災害パターン
根室市	海岸への人口集中は少ないため災害復旧の申請回数は少ない。一部の地区で海岸侵食・越波被害が生じている。
浜中町 厚岸町	霧多布は標高が低いため、津波による波害が生じている。外洋に面した岩石海岸では漁港周辺海岸の消波ブロックの飛散、ポケットビーチの消失が生じている。また、恵茶人海岸、厚岸湾内で海岸侵食が生じている。
釧路町	この地帯は外洋に面した岩石海岸で、点在するポケットビーチが漁港及び干場として使用されている。消波ブロックの飛散、砂浜の消失等により干場に被害が生じている。
釧路市 白糠町 音別町	おたのしげからちやろかわにかけて海岸侵食が生じている。
浦幌町 豊頃町 大樹町 広尾町	ちやうぶし 長節、旭浜、野塚等では、消波ブロックの飛散や海岸侵食が生じている。十勝港北では激浪時に海岸侵食が生じた。
えりも町	災害復旧申請回数は少ない。襟裳岬で、台風や冬期風浪時再三にわたって消波ブロックが飛散している。

(2) 津波被害

十勝釧路沿岸は、北米プレートとユーラシアプレートの境界に位置し、両プレートのおつかり合いにより、20~50年間隔でM8クラスの大地震を生じてきた(図 2.4.1参照)。

このため、十勝釧路沿岸で過去に受けた津波エネルギーは、本州の三陸地方、四国地方に次いで大きく、また、北海道内では他の海岸に較べて突出して大きい(図 2.4.2参照)。

これらの津波により、標高の低い浜中町、厚岸町では多数の死傷者を出してきた。また津波常襲地の三陸地方に近い、えりも海岸では過去に津波被害を受けた(写真- 2.4.1)。



霧多布 浜中湾と琵琶瀬湾とに沿う沿岸流で砂州が発達し、霧多布岬は陸けい島(砂州でつながった島)であったが津波により砂州は切られた。市街は堤防で囲まれている。

写真- 2.4.1 津波被害

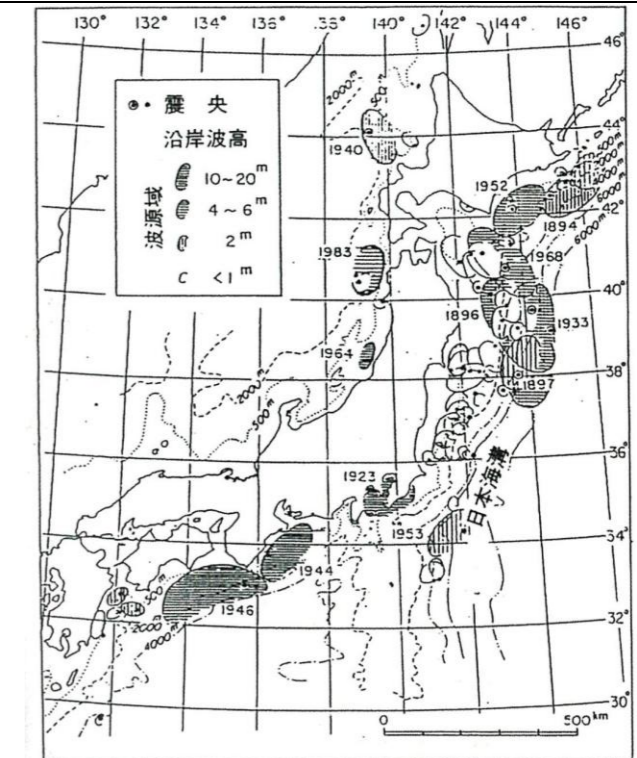


図 2.4.1 最近93年間(1894~1984)に日本海近海におきた津波の波源域分布
(「沿岸災害の予知と防災」P48)

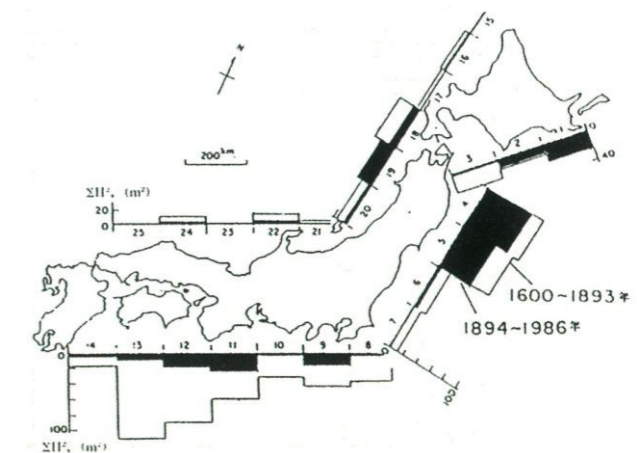


図 2.4.2 最近93年間に日本海沿岸で受けた津波エネルギーの分布
(「沿岸災害の予知と防災」P49)

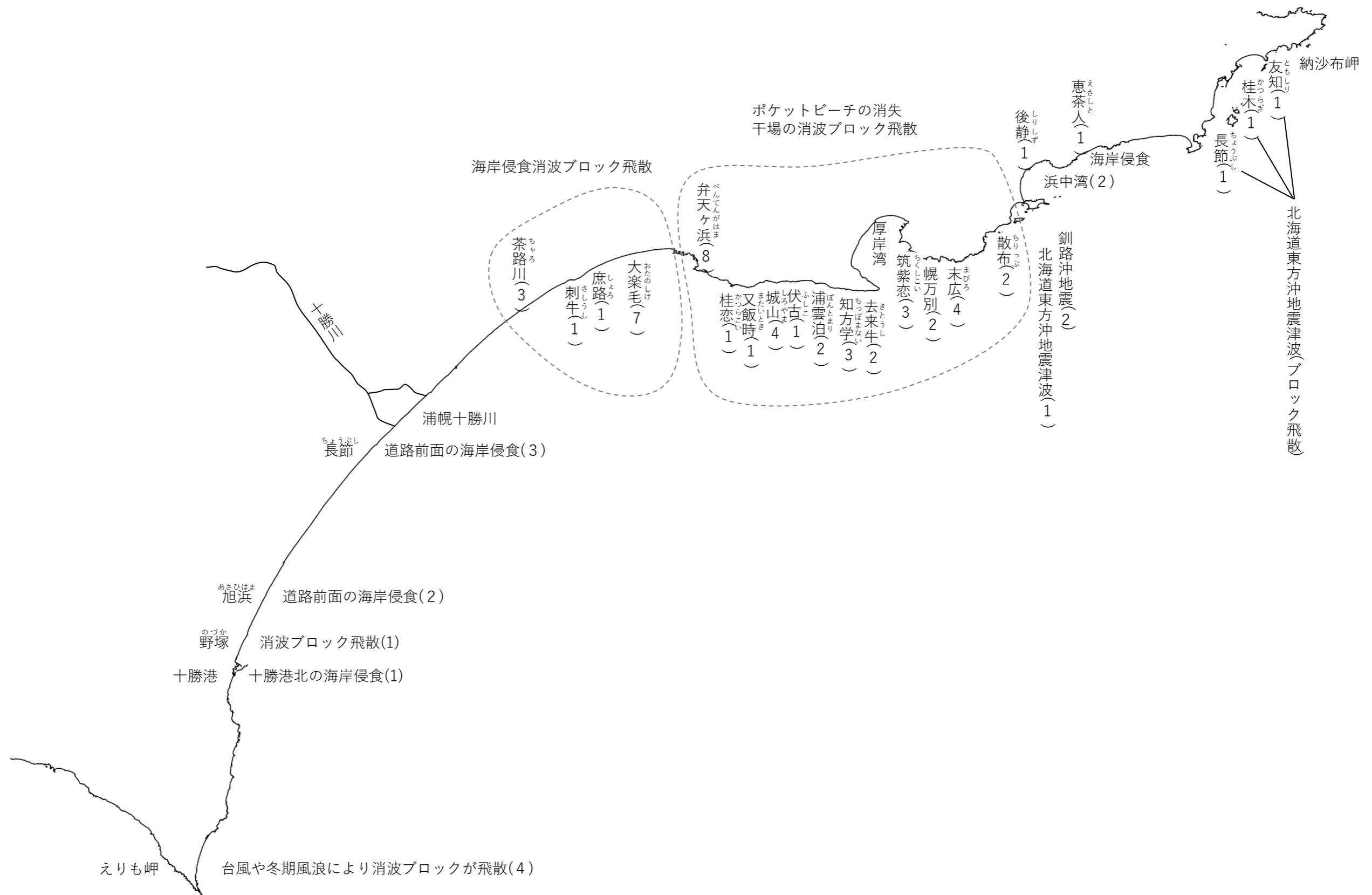


図 2.4.3 災害復旧工事申請回数（昭和52年から平成11年）
注 カッコ番は申請回数を示す。

2.5 将来の整備の動向

十勝釧路沿岸では、沿岸域の有する大きな可能性に着目し、各種の海洋性レクリエーション施設の整備をはじめ、様々な事業が展開されている。

豊頃町では「自然と産業の調和する豊かなまちづくり」を目指して、漁業振興、観光産業の振興を目的とした「マリンスティ基本計画」が策定されており、えりも町でも渚百選に選ばれた百人浜を中心としたリゾート計画を策定している。

また、釧路市では釧東漁港（千代ノ浦地区）を中心とした漁村環境の改善のために、用地を造成して多目的広場などを整備する新マリノベーション拠点交流促進総合整備計画が推進されている。

広尾町では、地域の自然やその特性に応じた海浜空間の整備を進め、地域の人々が気軽に海と親しめる広場、集い移行海浜空間を創りだそうとシーサイドパーク広尾が整備されており、今後は民間活力の導入などによる整備を進め、滞在型観光地の形成を図っている。



十勝港

表 2.5.1 十勝釧路沿岸における将来計画・構想

機 関	名 称
国、道における将来計画・構想	
国土交通省	国土形成計画
北海道開発局	北海道総合開発計画
北海道	北海道総合計画
各市町村における将来計画・構想	
釧路市	フィッシャーマンズワープ構想
釧路市	釧路新マリノベーション構想
豊頃町	マリンスティ構想
広尾町	シーサイドパーク広尾
えりも町	百人浜リゾートパーク基本計画

将来の十勝釧路沿岸に対する住民の意向

十勝釧路沿岸海岸保全基本計画住民アンケートによれば、安全面、環境面については「最も重点をおいて優先的に取り組むべきである」という回答が多く、関心の高さがうかがえる。また利用については、「普通に取り組めばよい」という回答が最も多く、安全、環境を優先した住民の意識がうかがえる。

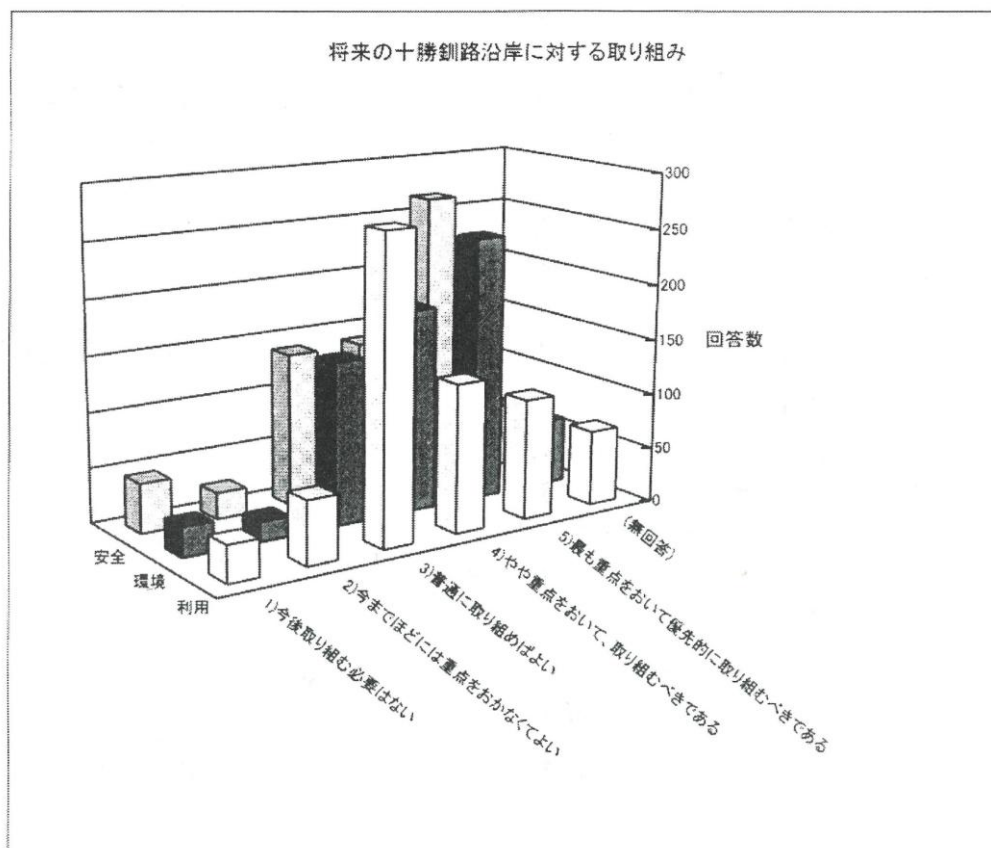


図 2.5.1 将来の十勝釧路沿岸に対する住民の意向
(十勝釧路沿岸海岸保全基本計画住民アンケート；平成12年11月)

2.6 海岸に望まれる姿

現況分析結果住民アンケート等を総括すると、十勝釧路沿岸域に望まれる姿として次のようなことが挙げられる。

環境保全面からみた望まれる姿

海から砂浜、湿原、原生花園、岩礁海岸までが一体となった環境に、タンチョウ・エトピリカ・ゴマフアザラシなどの様々な生物が生息する多様な生態系

- 広い砂浜、岩礁海岸、岬が美しい景観を織りなす海岸
- 豊かな原生花園が広がり、水質浄化に重要な役割をはたしている砂浜、干潟、湿原
- エトピリカ、ケイマフリなど貴重な北の海鳥の繁殖地となる岩礁海岸
- ゴマフアザラシが生息する島
- 渡鳥にとって重要な生息域・繁殖となる湿原・汽水湖
- ヒブナ等希少種が生息する海跡湖
- ハナサキガニ等固有の甲殻類や魚類が多く生息する海域

表情豊かな青い海、岩礁海岸と岬、広々とした砂浜がコントラストをなす、四季折々の美しい海岸景観

- 穏やかさと荒々しさをあわせ持つ青い海
- 開放感を感じさせる岬からの景観
- みる人に安らぎを与える広々とした砂浜
- 砂浜、海、岩礁海岸が織りなすコントラスト
- 日々変化し、四季の移ろいを感じさせる海岸

国土保全面からみた望まれる姿

自然の防災機能を活かした環境に優しい海岸保全

- 砂浜と浜崖による天然の消波機能
- 岩礁による天然の消波機能
- 幅広い樹林帯による飛砂防止機能
- 天然の防災機能を補う必要最低限の防災施設
- 面的防御による砂浜・ポケットビーチの侵食防止・回復
- ソフト面を重視した津波防災体制強化

利用面からみた望まれる姿

海を畏れ、敬い、愛する心を育む文化の継承

- 自然環境教育の機会をつくり、利用者の環境保全の意識向上
- 生態系に配慮した観光レクリエーション整備

特色ある自然環境を生かした観光レクリエーション・療養施設等の秩序ある利用

- 自然を学び憩い場として広く知られる地域
- 安全性の確保を前提とした海域・砂浜での活動・整備
- 自然環境と共存した産業振興
- 最低限の利用施設の整備による利便性の向上

海岸保全施設の多目的利用

- 離岸堤の魚礁効果の利用
- 離岸堤背後の浅海域利用による漁業資源開発